

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	小児看護学概論	単位 1単位	21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、こどもの人権尊重を基盤にした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かす			
担当講師	寶毛 良子 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	小児看護の特徴と理念	小児看護の目指すところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計:人口構造、出生と死亡	講義	寶毛 良子	基礎分野 文化社会学
	2	小児看護の変遷	小児看護の歴史、子ども観の変遷、小児医療の変遷	講義		専門基礎分野 病態と治療VI
	3	小児看護における倫理	子どもの権利と歴史的流れ、児童憲章 子どもの権利条約の特徴 子どもの権利を守る倫理 小児看護の課題	講義		社会福祉 I・II 関係法規 I・II
	4	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉:児童福祉の変遷と虐待 母子保健	講義		専門分野 看護学概論 家族看護論 小児援助論 I 小児援助論 II
	5	子どものヘルスプロモーションと看護	医療費の支援:未熟児養育医療 小児慢性疾患特定疾患治療研究事業 予防接種:歴史と現在の予防接種	講義		小児援助論 III 母性看護学概論 精神看護学概論
	6		学校保健 学校保健の歴史、健康診断、感染予防 食育、特別支援教育、臓器移植	講義		
	7	子どもの成長・発達と看護	成長・発達とは 成長・発達の進み方と影響する因子 成長・発達の評価	講義		
	8	乳児期の成長・発達	新生児・乳児の形態・身体生理の発達の特徴 感覚・運動・知的機能の発達、 コミュニケーション・情緒・社会的機能の発達	講義		
	9		新生児・乳児の養育および看護 遊びの支援、育児支援、	講義		
	10	幼児期の成長・発達	形態的・身体的発達の特徴、 感覚・運動・知的機能の発達	講義		
	11		情緒・社会的機能の発達、遊びの発達と社会性 幼児の養育および看護	講義		
	12	学童期の成長・発達と支援	形態的・身体的発達の特徴、 感覚・運動の発達、知的・情緒機能の発達	講義		
	13		社会的機能の発達、不適応行動・症状 学童を取り巻く環境 学童の養育および看護	講義		
	14	思春期・青年期の子ども	形態的・身体的発達の特徴 知的・情緒(心理)的・社会的機能の発達 不適応行動 性教育、安全教育 思春期の看護	講義		
	15	環境の変化と子どものQOL	子どもに関するテーマについてディスカッション	演習(45分)		
	16	終講試験	筆記試験	試験(45分)		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論 I	単位 1単位	健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶ			
担当講師	橋倉 尚美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	健康障害をもつ子どもと家族の生活と看護、状況に応じた看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 入院中の子どもと家族の看護 外来における子供と家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護	講義	橋倉 尚美	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療VI 社会福祉 I 専門分野
	2	子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期にある子どもと家族の看護 急性期にある子どもと家族の看護 周術期にある子どもと家族の看護 終末期にある子どもと家族の看護	講義	橋倉 尚美	看護学概論 小児看護学概論 小児援助論II 小児援助論III 経過に応じた基本技術 I 経過に応じた基本技術 I
	3	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	出生前 出生後の看護 おもな染色体異常疾患をもった小児の看護 低出生体重児の看護	講義	岡原 恵都子	
	4	症状のある小児への看護	子どもの痛み、不機嫌、啼泣、呼吸困難、嘔吐・下痢 発熱、脱水、意識障害	講義	山本 亜希子	
	5	疾患をもつ子どもの看護1	代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患 アレルギー疾患と看護	講義	山本 亜希子	
	6	疾患をもつ子どもの看護2	感染症(麻疹・風疹など)・呼吸器疾患と看護	講義	山本 亜希子	
	7	疾患をもつ子どもの看護3	循環器疾患	講義	山本 亜希子	
	8	疾患をもつ子どもの看護4	消化器疾患	講義	山本 亜希子	
	9	疾患をもつ子どもの看護5	神経疾患・運動器疾患	講義	山本 亜希子	
	10	疾患をもつ子どもの看護6	血液・造血器疾患・悪性新生物・皮膚疾患・	講義	山本 亜希子	
	11	疾患をもつ子どもの看護7	腎・泌尿器疾患及び生殖器疾患	講義	山本 亜希子	
	12	検査・処置を受ける子どもの看護1	薬物療法(与薬・輸液) 検体採取(採尿・採血・骨髄穿刺・腰椎穿刺)	講義	山本 亜希子	
	13	検査・処置を受ける子どもの看護2	吸引・吸入、救命処置	講義(45分)	山本 亜希子	
	14	障害のある子どもと家族の看護	障害のについて、生涯の原因・背景因子との相互作用 障害のあることの動向と看護 障害のある子どもと家族の特徴 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義	橋倉 尚美	
	15	子どもの虐待と看護 子どもの事故・外傷の看護	虐待への対策の経緯と現状、子どもの虐待とは リスク要因と発生子防・早期発見 子どもの虐待に特徴的にみられる状況とケア 子どもの事故の特徴、おもな事故・外傷と看護	講義	橋倉 尚美	
	16	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験 10割 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]	小児看護学概論・小児臨床看護総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2]	小児臨床看護各論	医学書院			

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅱ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族への日常生活援助と、対象にとって安全で安楽な療養生活が送れるような小児看護ケアを学ぶことで、小児看護に必要な知識・技術・態度を身につける			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	小児に必要な看護技術 検査・処置を受ける子どもの看護	コミュニケーション 成長発達のアセスメント バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント ベッド柵の操作 遊び	講義	中島 真希	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療Ⅵ
	2	子どもの安全・安楽	子どもの安全 ディストラクション プレパレーション 身体測定 点滴管理 抗生剤・点滴の計算 保清 感染予防 抑制	講義	中島 真希	専門分野 ヘルスアセスメント 家族看護論 小児看護学概論 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅲ 医療安全
	3	バイタルサイン測定 身体計測	演習	技術演習	中島 真希	
	4	日常生活援助 点滴管理	演習	技術演習	中島 真希	
	5.6	プレパレーション	グループワーク		長澤 亜由美	
	7	プレパレーション	発表		長澤 亜由美	
	8	終講試験	筆記試験		長澤 亜由美	
	評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 配分:中島講師6割 長澤講師4割 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]	小児看護学概論・小児臨床看護総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2]	小児臨床看護各論	医学書院			

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅲ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族の事例を通して情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで、小児看護に必要な知識、看護過程の展開の技術・態度を身につける			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1 5 6	小児の看護過程の展開	事例展開: 虫垂炎・川崎病 ネフローゼ症候群・気管支喘息の子どもと家族 看護過程、情報収集の視点 アセスメント 関連図の書き方 看護問題の抽出 ケアプランの立て方	講義 グループワーク	長澤 亜由美	基礎分野 専門基礎分野 病態と治療VI
	7		グループ毎に発表し共通理解をする	発表		専門分野 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 家族看護論
	8	終講試験	筆記試験			経過に応じた基本技術 I 経過に応じた基本技術 I 小児看護学概論 小児援助論 I 小児援助論 II 医療安全 看護管理・看護倫理
	評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院				